



HTTP サーバのディセーブル化

この章の内容は、次のとおりです。

- [HTTP サーバについて, 1 ページ](#)
- [HTTP サーバの注意事項と制約事項, 1 ページ](#)
- [HTTP サーバのデフォルト設定, 2 ページ](#)
- [HTTP サーバのディセーブル化, 2 ページ](#)
- [HTTP 設定の確認, 3 ページ](#)
- [HTTP サーバのディセーブル化に関する関連マニュアル, 3 ページ](#)
- [標準, 3 ページ](#)
- [HTTP サーバのディセーブル化の機能の履歴, 3 ページ](#)

HTTP サーバについて

セキュリティ上の問題に対応するために CLI からオフにすることができる HTTP サーバは、仮想スーパーバイザ モジュール (VSM) に埋め込まれています。

HTTP サーバの注意事項と制約事項

- HTTP サーバは、デフォルトでイネーブルになっています。
- HTTP サーバがディセーブルの場合、VMware Update Manager (VUM) は仮想イーサネットモジュール (VEM) をインストールしません。VEM のインストール中に、VUM は HTTP サーバに直接通信して、VSM から必要なモジュール情報を取得します。VEM をインストールするには、次のいずれかを実行する必要があります。
 - VEM のインストール中に HTTP サーバをイネーブルにし、VEM のインストール後に HTTP サーバをディセーブルにすることによって、VUM を使用する。

◦ VUM を使用せずに手動で VEM をインストールする。

- VSM から Cisco Nexus 1000V XML プラグインを取得するには、HTTP サーバをイネーブルにする必要があります。

HTTP サーバのデフォルト設定

HTTP サーバは、デフォルトでイネーブルになっています。

HTTP サーバのディセーブル化

デフォルトでは、HTTP サーバはイネーブルになっています。

はじめる前に

この手順を開始する前に、EXEC モードで CLI にログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# no feature http-server	HTTP サーバをディセーブルにします。
ステップ 3	switch(config)# show http-server	(任意) HTTP サーバの設定を表示します (イネーブルまたはディセーブル)。
ステップ 4	switch(config) copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no feature http-server
switch(config)# show http-server
http-server disabled
switch(config)# copy running-config startup-config
[#####] 100%
```

HTTP 設定の確認

次のいずれかのコマンドを使用して、設定を確認します。

コマンド	目的
<code>show http-server</code>	HTTP サーバの設定を表示します。
<code>show feature</code>	LACPなどの使用可能な機能と、それらがイネーブルかどうかを表示します。

HTTP サーバのディセーブル化に関する関連マニュアル

関連項目	参照先
すべてのコマンド構文、コマンドモード、コマンド履歴、デフォルト、使用上のガイドライン、例	『Cisco Nexus 1000V Command Reference』

標準

この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。

HTTP サーバのディセーブル化の機能の履歴

この表には、機能の追加によるリリースの更新内容のみが記載されています。

機能名	リリース	機能情報
HTTP サーバのディセーブル化	4.2(1)SV1(4)	この機能が導入されました。

